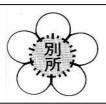
別所小の窓



さいたま市立大宮別所小学校 令和7年度10月号 児童数748名 Tu 048-667-3633 Fax 048-667-8770



深い学び~生成A1は「かしこい道具」の一つ~ 校長 神田 朋恵

社会の急速なデジタル化に伴い、「生成 AI」という言葉を耳にすることが増えました。子どもたちの学習においても、この新たな技術との関わりは避けて通れないテーマとなっています。生成 AI と聞くと、少し難しく聞こえるかもしれません。しかし、スマートフォンで調べ物をしたり、画像を検索したりする際に、すでにその一部が活用されています。私たちの身の回りにある、いわば「かしこい道具」の一つです。

しかし、生成 AI は万能な「答え」を与えてくれるものではありません。使い方を誤れば、思考停止につながったり、不確かな情報を鵜呑みにしてしまったりするリスクもあります。そこで、以下の3点が重要であると言われています。

主体的な思考 生成 AI の提案を鵜呑みにせず、「なぜだろう」「もっとよい方法はないか」と自分の頭で考えるカファクトチェック 生成された情報が正しいかどうか、複数の情報源と照らし合わせて情報の真意を確認すること情報モラル インターネット上には不適切な情報も含まれていることを理解し、安全に利用するために、

インターネットや情報機器を適切に利用するための倫理観や態度

池谷裕二著『生成 AI と脳~この二つのコラボで人生が変わる~』(扶桑社 2024)には、なかなか 興味深いことが記されていました。「今まで以上に人間側の努力が問われる」というのです。「生成 AI を使っても、決して人生はラクにはならない。むしろ、自分の感性を磨き、生成 AI の出すすばら しいアウトプットを選び抜くセンスや能力が、今後はより一層必要になってくる。」「人間側が AI の 性能に見合った実力を身に付けないかぎり、AI を有効活用することは、決してできない」

生成 AI に指示を出すには、言葉が必要です。その言葉を紡ぐのは、他ならない自分自身です。言葉は、相手に伝えたいという思いから生まれます。我々教師は、これまで以上に、教科の見方・考え方を通して児童一人ひとりに自分の考えをもたせ、コミュニケーション(単なる情報共有ではなく対話や話合い)を通じて、その考えを広げ深めさせることを大切にする必要があります。そして正解を見つけるだけでなく、最適解を求めて、主体的に自分の考えを深めていく力を育てたいと考えます。私達は子どもたちの将来を見据えながら、現在を一歩一歩積み重ねてまいります。

子どもたちが未来を生き抜くためには、生成 AI は不可欠です。生成 AI の時代だからこそ、子どもたちが"考える力"を育むことが、未来を生き抜く力につながります。御家庭でも、機会がありましたら、お子さんと話してみてください。「なぜ、そう思ったの?」「これはどうやってできたの?」「この答えは正しいかな?」会話から、子どもたちの考える力は育まれます。実りの秋、学びの秋です。

さて最後に、本稿は、どこまでが生成 AI 作成の文章でしょう。生成 AI に本稿を入力したところ、何と!褒められました。私も自分の仕事が取って代わられないよう(?!)、今まで以上に努力を重ねてまいります。皆様、今月もどうぞよろしくお願いいたします。

(実は前半7行は生成 AI 作成の文章です。イラストもです。)